

へき地・小規模校の教育

都城市立縄瀬小学校

校長 池田 佳弘

都城市立縄瀬小学校は、北諸県郡の旧高崎町に位置し、児童数47名の小規模校である。校区の環境は、校区の一部を国道221号線が通っているが、豊かな自然に囲まれ、田畑が広がり、畜産業の盛んな地域である。縄瀬小は、明治6年創立の歴史ある学校で、令和5年度には、創立150周年記念の年を迎える。また、縄瀬交通少年団の活動があり、毎年県大会で団体の部、個人の部で上位入賞を果たす実績がある。

本校の児童数の変動であるが、平成20年以降は、60人台から70人台で推移していったが、ここ5年ほどで、50人を下回るようになった。地域の方々も心配しており、学校運営協議会においても、縄瀬小の児童数減少に歯止めをかけるための対策が、話題として上がっている。

本校の特色ある取組としては、あいさつ運動と立腰である。まず、あいさつ運動では、校門で、登校班ごとに整列してあいさつをするのだが、これは多くの学校でも行っている。本校はその後、校舎に上がると児童一人一人が、職員室、保健室、校長室、そして事務室を回り先生方に挨拶をする。そのために本校職員の多くは、全校児童と毎朝挨拶を交わしていることになる。朝の挨拶の様子で、子どもの状態を把握することもできるし、視線を合わせることで、子どもたちもうれしそうである。

本校の特色ある取組の2点目は、立腰である。本校では、立腰指導を学習指導、健康教育として取り組んでいる。その一環として、朝、全校児童が集まって、立腰体操をしている。体操の中味としては、ほぼストレッチ運動であるが、始業時に全校児童でストレッチをすることは、健康増進に加えて、脳を覚醒させて、学習活動にも有効ではないかと考える。また、授業は、ほぼ座学である。多様な学習活動を取り入れているとは言え、トータルすると座学が多いことを考えると、毎日ストレッチをすることは、体の柔軟性を保つ上でも大切なことと考えている。しかし、学習中の立腰の姿勢は、定着までには至っていない。目の健康等も確保するためにも、立腰指導を粘り強く取り組んでいきたい。

最後になるが、縄瀬地区は、地域との協力体制が整っている。本年度も田植えや稲刈りを行ったが、地域の役員の方々そしてたくさんの保護者の方々が参加し、活動のための段取りや活動の見守り、そして作業の手伝いと積極的に行動され、子どもたちは、その保護者や地域の方に見守られ、伸び伸びとそして安心感をもって活動できている。



【稲刈りでの集合写真】

これからも、学校・家庭・地域が、一体となって縄瀬小の子どもたちの健全育成に向けて、尽力していきたい。